

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 1月27日

【評価実施概要】

事業所番号	3690300011
法人名	社会福祉法人 小松島敬和会
事業所名	グループホーム ひかり
所在地	徳島県小松島市坂野字椋のべ35番地 (電話)0885-38-1231

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年12月13日

【情報提供票より】(平成20年11月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤:9人、非常勤:7人、常勤換算:1階 6.68人 2階 5.88人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり ー 円			

(4) 利用者の概要(平成20年11月24日現在)

利用者人数	17 名	男性	8 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	10 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.2 歳	最低	66 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤野医院・福崎歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は自然に囲まれた能路寺山の麓に位置し、敷地内には同法人の高齢者施設が隣接している。医師でもある運営者が毎日事業所を訪れ、利用者一人ひとりの状態を把握して適切な医療を提供するなどし、安心した生活に繋げている。また利用者一人ひとりのペースに応じて起床や就寝、食事等の時間、外出などは個別対応の支援体制を整えている。職員は各種研修への参加を通じてサービスの質の向上に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善課題である「評価の意義の理解と活用」、「運営推進会議を活かした取り組み」、「栄養摂取や水分確保の支援」については改善されている。「地域とのつきあい」においては、ボランティアの受け入れのみにとどまっている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価についてのミーティングを開催して意義の理解に努めている。自己評価には全職員で取り組み、それぞれの意見を持ち寄って協議し、運営者と管理者がとりまとめている。外部評価での課題についても全職員で取り組み、サービスの質の向上に繋げている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2か月に1回(偶数月)開催し、家族や市職員、民生委員、職員などが参加している。会議では食中毒の予防や衛生管理、防災、評価などをテーマにして参加者間での意見交換が活発に行われている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の意見等は、意見箱を設置したり月1回来訪してもらう機会を設けて関係づくりに努めるなどして把握している。また定期的に「ひかり」便りを発行し、行事予定や実施報告、職員紹介などを行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 利用者の自宅地域の老人会や地域の社会福祉協議会のボランティアを受け入れている。しかし、近隣住民など事業所がある地域との関わりが十分ではない。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に職員間で協議し、「住み慣れた地域の中で、安心と尊厳をお守りします」という地域密着型サービスとしての理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念をスタッフルームへ掲示したり、会議や申し送り時に話し合うなどして理解・再確認し、日々のケアにおいて実践している。また「ひかり」便りにも記載するなどして、家族等へも周知している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者の自宅地域の老人会や地域の社会福祉協議会のボランティアを受け入れている。しかし、近隣住民など事業所がある地域との関わりが十分ではない。	○	近隣住民との積極的な交流を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価についてのミーティングを開催して意義の理解に努めている。自己評価には全職員で取り組み、それぞれの意見を持ち寄って協議し、運営者と管理者がとりまとめている。外部評価での課題についても全職員で取り組み、サービスの質の向上に繋げている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回(偶数月)開催し、家族や市職員、民生委員、職員などが参加している。会議では食中毒の予防や衛生管理、防災、評価などをテーマにして参加者間での意見交換が活発に行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月、市からの介護相談員を受け入れている。また運営上の報告や相談時には窓口へ出向くなどして協力関係を築き、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族に来訪してもらい、利用者の暮らしぶりを伝えたり情報交換するなどしている。また2か月に1回「ひかり」便りを発行し、行事予定や実施報告、職員紹介などを行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見等は、意見箱を設置したり月1回来訪してもらう機会を設けて関係づくりに努めるなどして把握している。また入居時には、事業所の担当職員や第三者委員の設置、外部の苦情相談窓口の存在などを説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については事前に十分な説明を行っている。また異動した職員も事業所を来訪して交流を持つなど、利用者への影響を最小限に抑える工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は計画を立てて実施している。外部研修は、職員の勤務年数や介護経験、資格等に応じて法人全体で管理して参加している。内部研修は各種委員会ごとにテーマにそって行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加した際に知り合った同業者と相互に見学を行ったり、情報交換を行うなどしている。また情報交換を通してボランティアの来訪が増え、利用者の生活の活性化に繋がるなど、共にサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学や自宅訪問を重ね、サービスの十分な理解と職員などとの馴染みの関係づくりを支援し、本人が納得したうえで利用を開始できるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の思いや不安、喜びなどの把握に努め、日々の生活の中で分かち合い、共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の提案や希望に応じて、集団もしくは個別に外出などの支援を行っている。職員は、利用者の希望や些細な反応、表情などから意向を把握し、申し送り等で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は毎日の申し送りやカンファレンスで利用者や家族の意向を共有し、それぞれの意見やアイデアを基にして介護計画を作成している。計画書には利用者・家族の確認印・サインがある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じて、また遂行状況や利用者の状態の変化に応じて本人や家族を交えて話し合い、見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとり、通院などの支援を行っている。また利用者や家族の状況・要望に応じて通院など必要な支援を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診や専門医への通院、協力医の来訪など、利用者や家族の意向に応じて安心して適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期に向けた事業所の支援方針を定め、利用者や家族の同意を得ている。利用者一人ひとりの医療連携に関する記録があり、主治医や看護師からの助言に基づいた支援を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、排泄介助時等における利用者への言葉かけや対応には細心の注意を払っている。また職員の採用時には守秘義務についての誓約書を交わすなど、プライバシー保護を徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝、食事の時間などは利用者の生活スタイルに応じて細やかに対応している。利用者の意思や体調に配慮した日々の暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	四季の移ろいを感じられる献立に加え、利用者と共に栽培した食材を取り入れた食事を支援している。また利用者の嗜好に応じて支援し、食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日楽しめるよう体制を整え、利用者の体調や要望に応じて時間や温度調整、シャワー浴や部分浴などを実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者一人ひとりの好みやできることに応じ、手芸や家事に参加できるよう支援している。手芸作品は事業所内に展示したり、居室に飾るなどして利用者の喜びに繋げている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望や心身の状況、天候等に配慮し、自宅周辺へのドライブなどの外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者への目配りや気配りを行い、安心した生活が送れるよう職員を配置し、夜間の就寝時以外は鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を年に2回実施し、非常食も3日分を備蓄している。また地域消防団との関係を大切にし、自衛の協力も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューは同じ敷地内にある施設の栄養士から助言・指導を受け、食生活の充実に繋げている。また食事・水分摂取量の記録に基づき、体調管理や健康状態の指針にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはコタツやソファなどを設置し、利用者が思い思いの時間を過ごせるよう工夫している。また廊下には日頃の生活の思い出や行事の記録を写真に撮って掲示している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の希望に応じ、神棚があったり手芸作品を飾るなどしている。また生活様式や身体状況に応じて和室や洋室を選ぶことができる等の工夫も行っている。		